庄内食の都 おいしい米づくり情報

2026/07/27

第11号　出穂以降の水管理編

庄内総合支庁　農業技術普及課
Tel. 0235-64-2103

「はえぬき」「雪若丸」は**出穂しはじめ**ました。
今後も**暑さが続く**見込みです。
“**水を溜めすぎず、乾かしすぎず**”がポイント

＜気象及び生育の状況＞

7月4日以降最高気温、最低気温ともに平年より高く、生育は進み生育診断圃の出穂期の予想は、平年**並～２日程度早く**、記憶に新しい高温登熟年の**令和 ５ 年に迫る早さ**です。中生の「はえぬき」「雪若丸」は出穂期に達している圃場もあり、ほとんどが7月中には出穂しそうな状況です。また、晩生の「つや姫」も止葉が抽出し、もうすぐ出穂です。

梅雨明けはまだですが、1か月予報（7/25～8/24）では、平年同様に晴れの日が多く、平均気温が高い確率は 50%と今年も**登熟期は高温傾向**の予報です。

根の活力を維持する適切な水管理「**水を溜めすぎず、乾かしすぎず！**」で登熟向上に努めましょう。また、田植えの早い圃場では**９月早々の刈り取り**が想定されます。刈取り作業の準備も怠りなく始めましょう。

＜当面の技術対策＞

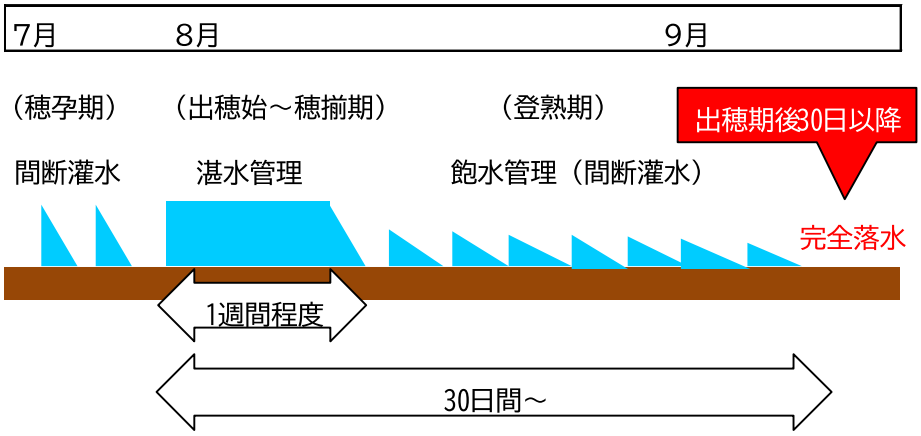
1　メリハリのある水管理で稲体活力の維持・登熟促進

①出穂始から穂揃期にかけては花水

稲は出穂・開花の時に一生のうち最も多くの水を必要とします。出穂を確認したら直ちに入水しましょう。出穂始めから穂揃期までは水深2～3cmの湛水状態を保ちましょう。

②穂揃期後から出穂後30日頃までは飽水管理（間断灌水）

登熟能力を支えるのは葉と根の活力であり、根は適度な水分と酸素を必要とします。また、**水はさめにくい**ため**湛水したまま**では、夜間でも水温が下がらず、**根傷み**や**根腐れ**が生じやすくなります。そのために、飽水管理（間断灌水）を行いましょう。



飽水管理

田面は露出していても、足跡に水がしみ出してくれば OK。

「飽水管理」とは

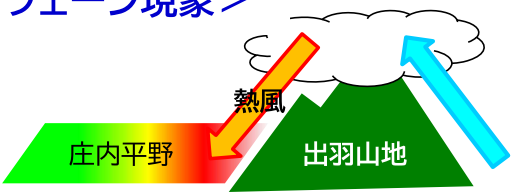
・湛水せずに土壌を常に湿潤状態に保つ水管理のこと。

・限られた水を有効に使い、かつ稲体の活力を維持するための水管理方法。

③強風時は一時的に深めの水管理

フェーン現象や台風による強風は、稲体水分を低下させ、白穂や茶米の発生を招きます。強風時は、稲体の水分低下・消耗を防ぐために一時的に水深3～5cm の湛水状態としましょう。その後は必ず飽水管理（間断灌水）に戻しましょう。

＜フェーン現象＞



2　病害虫対策

① いもち病

いもち病発生に好適な気象条件が続いており。管内でも葉いもちの発生が確認されました。葉いもちの発生している圃場では穂いもちも発生しやすくなります。穂孕期あるいは穂揃期の防除により穂いもちの発生を防ぎましょう（農薬ごとの使用適期を必ず確認）。

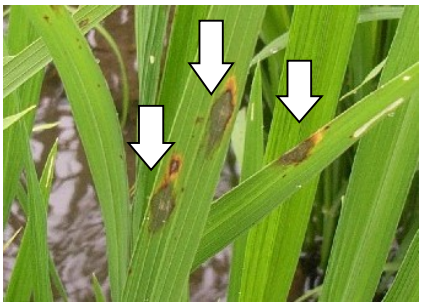


写真　葉いもちの病斑
（やまがたアグリネット）

② 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。7月2日に有害動植物発生予察情報注意報第1号が、7月27日に同第2号が発令されました。

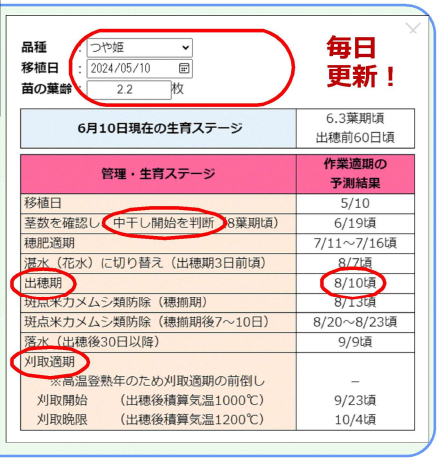
2回の基本防除を徹底しましょう（1回目：穂揃期、2回目：穂揃期の7～10日後）。2回目防除後に水田内で斑点米カメムシ類を確認した場合は、2回目防除の7～10日後に補完防除を行いましょう（農薬の収穫前使用日数と使用回数を必ず確認）。

「やまがた米づくりナビ」で出穂期・刈取適期を確認

予測は毎日更新（約1か月先の気象予報を反映）

適期作業カレンダー（6品種対応）

・圃場ごと品種を選び移植日を入力すると、出穂期、カメム
　落水時期、刈取り時期が表示
　【「つや姫」「はえぬき」「雪若丸」で表示】
・出穂期、落水時期、刈取適期の予測を定期的にチェック
　→適期管理が可能！
　詳しくは最寄りの JA または農業技術普及課へ



＜農薬使用者の皆様へ＞

●農薬使用に当たっては、近隣のミツバチ飼育の有無を確認しましょう。

※ミツバチ飼育情報は、山形県農林水産部畜産振興課又は各総合支庁農業振興課にお問い合わせください。

熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう

☑作業は涼しい時間帯に　☑塩分と水分をこまめに補給　☑定期的に休憩を　☑作業は涼しい服装で